

体罰・暴力等のない社会を目指して
～フェアプレー精神溢れる元気で明るい社会の実現へ～

昨今の報道にもありますように、いじめや体罰によって未来を担う子ども達の尊い命が絶たれるといった痛ましい事案が起こり、特にスポーツの現場での体罰が後を絶ちません。

いじめや体罰、暴力・暴言は、まさにフェアプレー精神の対極であり、暴力行為によって相手を服従させることは、「人」として許すことのできない行為です。

指導するということは、ある目的・方向に向かって教え導くことであり、決して痛みや恐怖心によって服従させることではありません。

本来、スポーツ活動においては、フェアプレー精神を尊重したスポーツマンシップに則った考え方が重要です。

フェアプレーには2つの意味があるとされています。

一つは「行動としてのフェアプレー」として、ルールを守る、審判や対戦相手を尊重する、全力を尽くす、勝っても驕らず、負けてもふてくされたりしないなど、行動に表れるフェアプレーのことです。

もう一つは「フェアプレー精神（フェアな心〈魂〉）」として、スポーツの場面に限らず、日常生活の中でも、自分の考えや行動について善いことか、悪いことかを自分の意思で決められること。自分自身に問いかけた時に、恥ずかしくない判断ができる心〈魂〉のことです。

当協会は、「スポーツで元気な横浜！」をスローガンに「いつでもスポーツが楽しめる明るく豊かな社会の実現」を理念に活動しております。

この理念の実現を目指していくため、そして私たちスポーツに携わる者として、スポーツが人を傷つけることのないよう、私たちが担っている社会的使命や意義を再度自覚し、現場指導者や選手は勿論、日常生活等の場においてもフェアプレー精神に則った責任ある行動と自覚を持つよう指導の徹底を行います。

さらに、スポーツの持つ力で、いじめや体罰のないフェアプレー精神溢れる元気で明るい社会の実現を目指して、横浜市体育協会に加盟する73団体一丸となって全力で取り組んでいきます。

平成25年2月7日

公益財団法人横浜市体育協会
会 長 山 口 宏